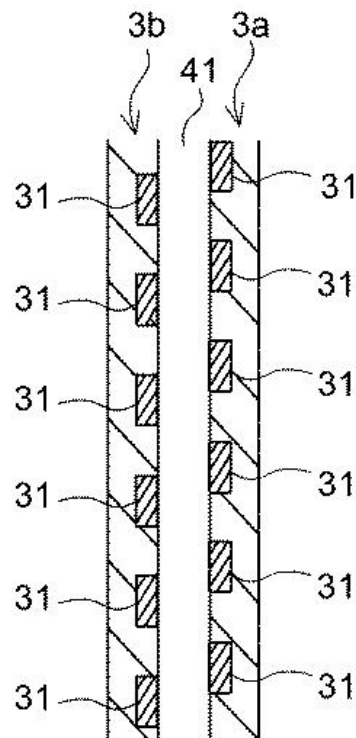


発明の名称	熱線遮蔽ユニット及び熱線遮蔽方法		
出願人/権利人	株式会社オプト	発明者	安田 享
出願日	平成27年1月20日	出願番号	2015-008676
公開番号	2016-132934	特許番号	6548108
法的状態	登録中		

代表図

3a, 3b 光透過板
31 熱線遮蔽部
41 空隙



発明の概要

季節に応じて赤外線遮蔽性を制御することができる熱線遮蔽ユニット及び熱線遮蔽方法

特徴

熱線遮蔽ユニットは太陽光を透過する光透過板が直接又は間接的に複数積層されている熱線遮蔽ユニットであって、光透過板のそれぞれには、可視光に対して透明な導電性金属酸化物微粒子からなる複数の帯状の熱線遮蔽部が互いに平行するように形成されている。熱線遮蔽部の並列方向に位置調節することによって熱線の遮蔽を制御できる。例えば建物に設けられる採光窓又は自動車のフロントガラスなどとして有用である。また、本発明の熱線遮蔽方法は、それらの採光窓又はフロントガラスから取り込まれる熱線の量を制御するための熱線遮蔽方法などとして有用である。

加工技術

食品や化粧品組成物に添加できる脂溶性成分抽出方法

発明の名称	藻類から脂溶性成分を抽出する方法		
出願人/権利人	日本粉末薬品株式会社、うみの株式会社	発明者	佐藤 文彦、中村 智治
出願日	平成28年11月1日	出願番号	2016-214651
公開番号	2018-68245	特許番号	6546578
法的状態	登録中		

代表図(図面なし)

【請求項1】

珪藻類からフコキサンチンを1.5mg/g以上の濃度で抽出する方法であって、

- (1)珪藻類を粉砕する工程、
 - (2)粉砕した珪藻類に中鎖脂肪酸を添加してなる溶液を作製する工程、及び
 - (3)該溶液を湿式微粒化処理して抽出物を得る工程
- を含み、
湿式微粒化処理が、
(a)該溶液を高圧ノズルから高圧噴射し微粒化処理する工程、
(b)微粒化処理した溶液にエアを供給する工程、
(c)エアを供給することによって形成された気泡中で放電させ、液中プラズマ処理し、フコキサンチンを含む抽出物を得る工程、
を含むことを特徴とする、方法。

発明の概要

藻類に含まれる脂溶性成分を高濃度で簡便に抽出する方法、その抽出物を配合した食品・化粧品

特徴

本発明では、藻類の脂溶性成分を低極性溶媒中で抽出することで、溶媒を蒸発させて脂溶性成分を濃縮、精製することなく、直接食品や化粧品組成物に添加できる。

微粒化処理することで藻類の細胞壁を破壊し、効率よく脂溶性成分を抽出できる。化粧品として使用すれば美肌効果やアンチエイジング効果が期待でき、食品として摂取すれば動脈硬化や生活習慣病の予防、抗腫瘍作用、神経細胞保護作用が期待できる。また、乳液や化粧水などの化粧品、清涼飲料水、乳製品、菓子類又はサプリメント等の各種飲食品の添加剤に好適に使用できる。

関連分野

飲食、ケミカル、医薬

医療・保健衛生

自律神経活動量の偏差値に基づく自律神経評価装置

発明の名称	自律神経評価装置、自律神経評価方法、プログラム及び記録媒体		
出願人/権利人	株式会社疲労科学研究所	発明者	倉恒 弘彦、小泉 淳一
出願日	平成29年11月14日	出願番号	2017-219035
公開番号	2018-149262	特許番号	6550440
法的状態	登録中		

代表図

		自律神経バランス LF/HF 値			
		低値 (0.8未満)	基準値 (0.8～2.0)	高値 (2.0～5.0)	極高値 (0.5以上)
自律神経活動量 (Co/P) の偏差値	高値 (57以上)	A	B	C	D
	基準値 (43～56)	E	F	G	H
	低値 (38～42)	I	J	K	L
	極低値 (37以下)	M	N	O	P

自律神経の状態の総合的な評価結果

発明の概要

自律神経評価装置、自律神経評価方法、プログラム及び記録媒体

特徴

被験者の自律神経活動量の偏差値を算出する「偏差値算出部」と、被験者のLF/HF値と、自律神経活動量の偏差値とに基づき被験者の自律神経の状態を評価して評価結果を出力する「評価部」とを有する自律神経評価装置である。「評価部」は、被験者の過去のLF/HF値及び自律神経活動量の偏差値と、現在のLF/HF値及び自律神経活動量の偏差値とを比較し、被験者の自律神経の状態の変化を評価できる。そのため、被験者に対して自律神経の状態の変化を通知でき、過去の自律神経の状態を踏まえて被験者が行うべき行動等に関するアドバイスを行える。

関連分野

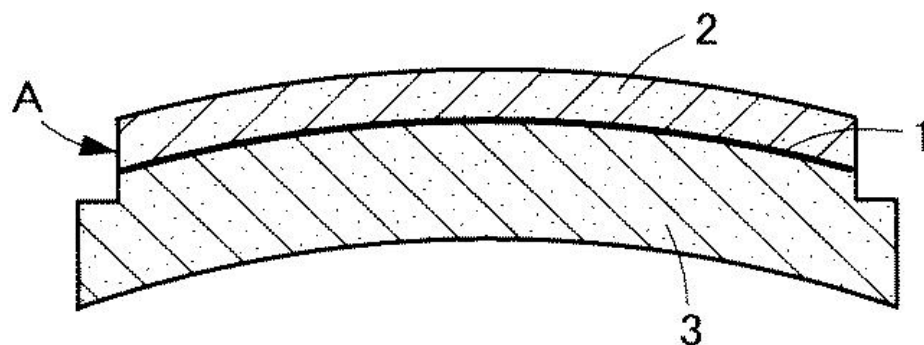
業務用機械、電気機械、放送・通信、専門技術サービス

加工技術

耐候性の良くない染料なども添加できるレンズ製造方法

発明の名称	複合機能性偏光レンズの製造方法		
出願人/権利人	タレックス光学工業株式会社	発明者	田村 皖一、光内 祥一、和田 憲三、新田 竜午
出願日	平成29年12月4日	出願番号	2017-232721
公開番号	2018-72851	特許番号	6553157
法的状態	登録中		

代表図



- 1 偏光フィルム
- 2 第1レンズ基材層
- 3 第2レンズ基材層
- A 複合機能性偏光レンズ

発明の概要

偏光機能に加えて、他の特定機能を併有する複合機能性偏光レンズの製造方法

特徴

赤外線吸収剤などを添加した機能性を有する眼鏡レンズを製造する場合、度付部分を先だって透明で作っておき、それを凹面側にセットして2層注型成形する事により、高価な赤外線吸収剤の使用量を節約できる。そして、視力矯正用眼鏡レンズ（セミ品）を度付加工した後で、偏肉化されてもほぼ均一な性能を保持できる。従来、耐候性が悪い光吸収剤を眼鏡用レンズに添加できなかったが、この発明の複合機能性偏光レンズでは、UVカット性能を保有する凸面層と偏光素子で凹面層には紫外線が届かないようにできるので、耐候性の良くない染料などの光吸収剤を添加できる。

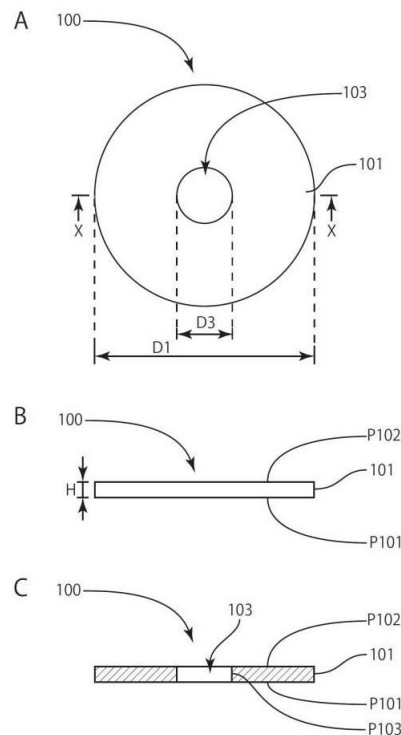
業務機械

所望の位置に細胞を培養できる細胞保持領域形成装置

発明の名称	細胞培養容器用細胞保持領域形成装置		
出願人/権利人	株式会社幹細胞&デバイス研究所	発明者	堀 晃輔、河原 紀之
出願日	平成29年12月21日	出願番号	2017-245470
公開番号	2019-110788	特許番号	-
法的状態	出願中		

代表図

- 100 細胞培養容器用細胞
保持領域形成装置
- 101 本体
- 103 細胞保持空間
- P101 容器接触面
- P102 上面
- P103 細胞保持空間壁面
- D1 外直径
- D3 内直径
- X 断面
- H 所定の高さ



発明の概要

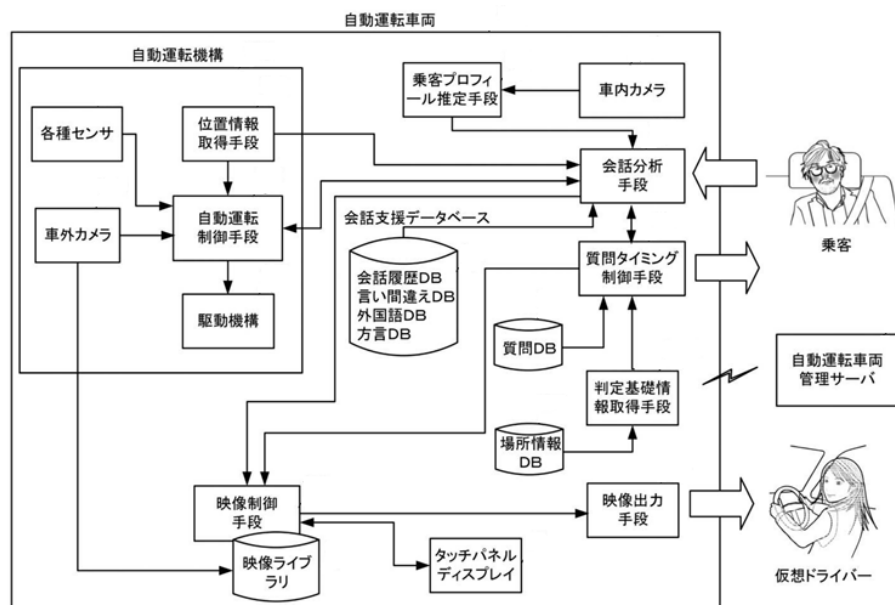
所望の位置に容易に細胞を培養できる細胞培養容器用細胞保持領域形成装置

特徴

細胞培養容器に対して細胞保持空間を配置し、所望の位置に容易に細胞を培養できる。また、細胞保持空間に対して所定の処理を施すことによって、細胞培養容器上の所望の位置に、所定の処理を施した領域を形成できる。例えば、親水処理を施す場合、細胞培養容器上の所望の位置に、親水領域を形成でき、細胞を所望の位置に容易に播種し培養できる。さらに細胞培養容器上の所望の位置に細胞保持空間を配置し、3次元的に所望の細胞を配置できる。本発明は例えば、培養した心筋細胞の細胞活動に基づく細胞外電位の計測に用いられる。

発明の名称	乗客との会話により目的地を絞り込む移動体、移動体システム、目的地絞り込み方法及びプログラム		
出願人/権利人	株式会社オプテージ、株式会社日本総合研究所	発明者	吉岡 武、三宅 義弘、山口 健二、井上 岳一、武藤 一浩
出願日	平成29年12月28日	出願番号	2017-254010
公開番号	2019-121048	特許番号	6528342
法的状態	登録中		

代表図



発明の概要

会話に支障がある乗客であっても、その乗客との会話から目的地を絞り込める移動体システム

特徴

高齢者、視力障害者、泥酔者、土地勘のない者、外国人等、会話に支障がある乗客であっても、その乗客との会話から目的地を絞り込める移動体及び移動体システムを提供できる。移動体が乗客に発する質問は、場所情報や時間情報など、所定の判定条件に基づき、最適なタイミングが選ばれる。無人の自動運転の移動体だけでなく、自動運転可否かを問わず、有人の移動体においてもドライバーと乗客の会話支援システムにも適用が可能である。有人の移動体の場合は、人間のドライバーは、乗客との会話を仮想ドライバーに任せて、自分自身は運転に専念できる。

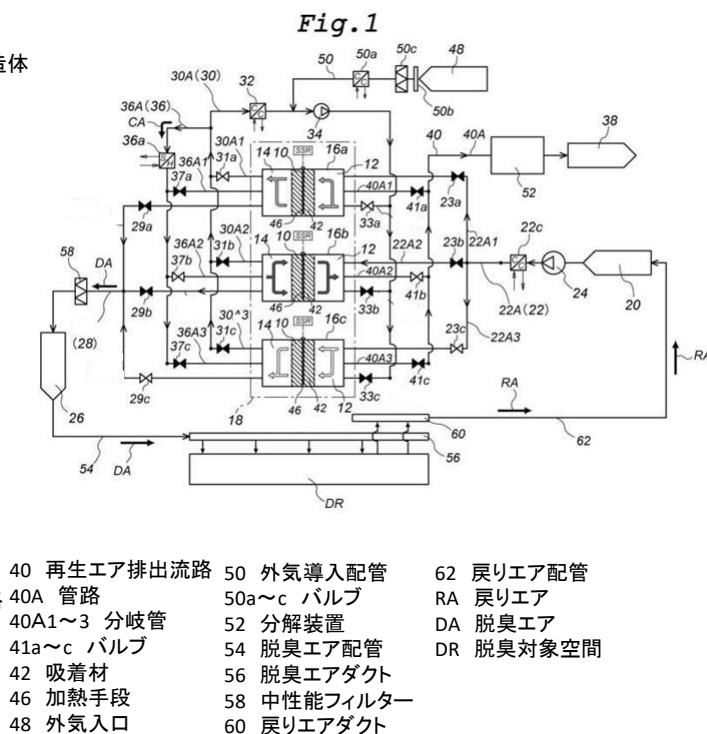
廃棄物処理

ランニングコストが低く長時間安定的な脱臭装置

発明の名称	脱臭装置		
出願人/権利人	カンケンテクノ株式会社	発明者	今村 啓志、金森 昭夫
出願日	平成28年12月8日	出願番号	2018-555322
公開番号	WO2018/104986	特許番号	6545403
法的状態	登録中		

代表図

- 10 悪臭成分吸着構造体
 12 第1室
 14 第2室
 16a～c 脱臭器
 18 固定式脱臭塔
 20 エア入口
 22 戻りエア供給流路
 22A エア供給流路
 22A1～3 分岐管
 22c プレ冷却装置
 23a～c バルブ
 24 処理ファン
 26 脱臭エア出口
 28 分岐管
 29a～c バルブ
 30 冷却回路
 30A1～3 分岐管
 31a～c バルブ
 32 冷却装置
 33a～c バルブ
 34 冷却ファン
 36 再生エア送給流路
 36A 管路
 36a 補助加熱手段
 36A1～3 分岐管
 37a～c バルブ
 38 再生排気口



発明の概要

処理対象空気中の揮発性有機化合物(VOC)や有機ガス等からなる悪臭成分を除去する脱臭装置

特徴

悪臭成分吸着構造体に用いる吸着材として、無機多孔質材料を主体とした物理的吸着材そのものを比表面積の大きな粒状又は塊状にして使用しているため、悪臭成分吸着構造体の単位容積当たりの悪臭成分吸着量を極大化させられる。

また、悪臭成分吸着構造体が接着剤や樹脂パッキン類などを含まないため、吸着材を加熱して悪臭成分吸着力を再生する際の加熱温度を200℃～300℃まで上げられる。それゆえ、吸着材の悪臭吸着力再生の際に吸着材を200℃～300℃の高温で加熱して、吸着材が吸着したVOCやその他有機系の悪臭成分を迅速に離脱させられる。